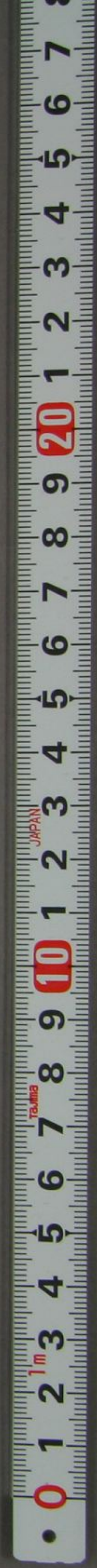


上
申
書

2800



44
A 650



明治

十四年再置縣願望之趣旨

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

因伯二州、雲石二州ト夙玉人情ヲ異ニス

一 以テ再置縣ヲ願望スル事

一 官民、同吸和親睦スル事

一 民力、衰耗ヲ挽回スル事

一 士族授産ノ事

一 開道築港以テ物産ヲ旺盛ニスル事

一 教育擴張ノ事

右数件、事實ニ明治十四年二月某省ハ呈出セ
之鳥取縣再置願書ニ詳記セルヲ以テ此ニ其

要領ヲ摘録シ保セテ當時士族ノ情況及其他
伯人氏ノ風ニ希望セシ所ノ事項ヲ略述スベシ
嘆願書ニ曰ク前畧夫レ施政ノ要ハ民情ヲ洞
察シ慣行ヲ審察シ其宜シキヲ得ルニアリ
其俗ヲ異ニシ民其情ヲ同フセザルモノヲ
轄シ一様ノ模型ヲ以テ強テ之ヲ理セントス
ルハ彼ノ利此ノ不便ニシテ苦訴百出於此
上下ノ害ヲ釀成スルナリ抑因伯雲三州ハ山
崖ノ間ニ在リテ確ニ三十里余ノ道然テ
相隣接スト雖モ民情慣行ノ相反セルヲ
乘偶

ノ西陲ニ於ケルヨリモ甚シ而シテ之ヲ一
縣ノ下ニ統轄シ全管人氏ヲシテ苦訴ナ
シメント政スルモ益ニ得ハカラサルナリ
従
来出雲ト因伯ト凡モ人情ノ反對セルヲ
氷炭帝ナラズ然ルニ其治廢ヲ出雲ニ置
カル
・ヤ出雲ヲ主トシテ因伯ヲ容トシ出雲
ヲ根
本トシ因伯ヲ枝葉トシ出雲ノ凡モ人情
ヲ以
テ因伯ノ凡モ人情ヲ律セラルノ勢アリ
毎
事放棄相容レズ古友古吾スルヲ免レザ
ルハ
何ゾヤ出雲ノ地タル膏沃ニシテ物産
蕃殖五

穀豐饒而シテ因伯ノ土ニ之ニ及シテ然ルヲ
得ス出雲ハ山河ノ硬ヲ占メ運輸ノ利ニ富ム
リ而シテ又因伯ノ土ニ之ニ及シテ然ルヲ得
ス出雲ノ人ハ其至使至利運輸自在百貨流
通ノ地ニ居リ自ラ高亭百凡ノ業ニ熟練シ頓
ル怪營ノ智力ニ活潑ニシテ其勞カ活勵常ニ
以テ其平均ヲ得カレハ十ニ失フ所少クシテ
得ル所多ク而シテ人々恰シ家々富ム於是人
互ニ相勉メ相勵ムノ精神ハ益堅ク以テ業
日謀リ事ヲ成スノ耐忍アルヲ視ルニ至レリ

況ンヤ其治廳ノ下ニ在リテ自ラ其保護ヲ受
クル厚キニ於テヤ然ルニ因伯ノ人ハニ至
リテハ山間ノ僻土ニ棲息シ其勞カヲ費ス假
令出雲人ハニ倍徒スル者アリト雖モ彼ノ如
ク其得失ノ平均ヲ得ル能ハズ常ニ費ス所多
クシテ得ル所以テ其半額ヲ償フニ足ラズ日
日進テ窮迫ニ陥リ今日ノ恰用スラ其困難ヲ
来シ不足ヲ生シ或ハ資産ヲ賣却シ或ハ家具
ヲ典賣シ一時其不足ヲ充償シ其困難ヲ救済
スルモ限リタルノ資カヲ以テ限リナキノ需

用ニ供之如何リ困弊貧寒ノ域ニ陷ラザルヲ
得ニヤ保ニ三有志ノ徒ノ奮發激昂ヲ起シ
産ヲ立ツルニ驅勉スル者アリト雖此之レヲ
替羽異補助スルノ有力者ナキヨリ自ラ其目的
ヲ達スル能ハス而シテ其有志精神モ且推テ自ラ抗テ國土凋衰民物疲弊今
日ノ勢ヲ將來ヲ推察スルニ因伯西國ハ無産
人瓦ノ淵藪タラシノニ夫レ管下人民ノ勦ム
者ヲミテ益劬コシメ勉ム者ヲシテ愈勉ムニ
メ惜ル者ハ之レヲ督責ニ勉メサル者ハ之レ
ヲ鞭撻ニ以テ起業殖産ヲ謀ルハ固ヨリ治廢

ノ真化ナリト策モ我因伯ニ至テハ獨リ其地
廢ト相懸傷ニ幸情ノ全ク洞澈セザル者アリ
テ而シテ起業殖産ノ法振起セザルハ之ナラ
ズ自然其保護ヲ仰クノ藩キヲ免カレヌ然ラ
ハ則我因伯ヲシテ國土凋衰民物疲弊セシム
ル者ハ其咎何レニ在ルヤ上官吏ニ在ラズ下
人瓦ニ在ラズ其治廢ノ相懸傷スルノ不便利
ヲ極ムルガ故ナリ因之觀之出雲ノ風土人情
ヲ以テ因伯ノ風土人情ヲ律セラレハ其一大
ニ實際ニ背馳スルモ、ナルヘシ是レ其取縣

再置ヲ請フ所以、一ナリ

因伯ノヨリテ遂テ凋衰疲弊スル其原因一ナラ
スト策重ニ在基ニキ者アリ其一例ヲ引證セ
ルニ出雲ハ改土膏壤其地價因伯ニ比較スル
中ハ耶々堂サニ自テ其昂低ナルニモナリ然
ルニ其及テ出雲ハ因伯ヨリ低リシテ而シテ
因伯ハ出雲ヨリ昂リ故ニ其地價ヲ改是相約
照比例スルニ因伯ノ耕地一反歩ノ地價ヲ平
均シ之ヲ出雲ニ較ブルバ昂テ八四釐ノ差異
アルヲ見ルニ至ル茲ニ先〇年々因伯地價ニ

課當セラル、所ノ地方稅ヲ以テ其地租五分
ノ一トナシ而シテ彼是相平均乘除スル中ハ
彼地價不平均ノ影響著スル所アリテ因伯一
々歳々或第圓益過剩ノ賦課ヲ受クルノ割合
ニシテ而シテ其縣層ニ於テルヤ議員ノ意見
隨ル相合セザル者アリ因伯議員ハ偏ニ其
リ人口ニ課當スルノ論勢アルヲ免カレズ雲
石議員ハ之レニ反シテ偏ニ其多ク地價ニ配
當スヘキヲ欲スルノ論勢アルヲ免カレズ蓋
シ各其利スル所ヲ固持シテ其相適セザルモ

人情、敢テ告ムヘカラザルモノアリ然レモ
必ゾヤ雲石議員ノ議會、効力ヲ古有スル所
トナリテ兩伯人民ハ徒費徒勞雲石ヲ補助ス
ルノ姿勢アリ況ニヤ各年十一月本政官第
十八号ノ布告アルニ於テヤ地方税賦課支
辨ノ科目多キヲ加ヘ其賦課セラルル所或ハ
今日ニ倍スル者ナシト謂フヘカラス然ル片
ハ因伯人民何ヲ以テ之ニ堪ヘンヤ恐ル其疲
弊スル者益疲弊シ凋衰スル者益凋衰シ將
ニ言フヘカラザルノ慘状ヲ釀成スルニ至ラ

ニトチ嗚呼其共ニ其便利ヲ保有シ怪濟ヲ同
一ニスベカラザル大畧前ニ述ブルガ如シ是
無取縣再置ヲ請フ所以ノ二十ナリ
我々舊身取縣廢ノ位置ヨリ當島根縣廢ノ位置
ニ至ルマテ其距離三十里ニ出テ背後極限ヨ
リハ四十里ニ下ラヌ一日十里詰ヲ以テ之ヲ
合算スレハ身ヲ三日程四日程ニシテ其往返
ヲ合算スレハ身ヲ七八日程ナリ之レニ加フ
ルニ瓦リ因伯人民ノ申請スル所或ハ雲人ト
皆馳セルヲ以テ願吏容易ニ判變スルヲ得ス

之レカ為々ニ分外澆滯スルモ、其實ニ幾日
ナルヲ豫定スバカズ今之ヲ極メテ抵減平均
ニテ一季ニ三日ト擬定スルモ往復間ノ七八
日ト合算スルハ大凡十日内外ナリ之ヲ以
テ請願同其他恭應ヲ要スルノ事人瓦居住地
ノ都鄙遠近ヲ以テ小大別ナキニ非ズト雖モ
之ヲ要スルニ従前一日二日ニシテ辨了シ来
ル者モ必ス七日八日乃至十日内外ヲ續ムニ
アラガレバ辨了スルヲ得ス其間各自ノ本業
ヲ廢擱シ至錢ヲ消糜シ盡ニ日數里程ノ倍蓰

スルノミナラス是レ人民ニ於テハ正レク一
件ニシテ十日ノ常費ヲ増加シ十件ニシテ百
日ヲ増加スルナリ以上之ニ準シテ百千第^件次
第ニテ上ルハ因泊出口二十八萬人ニカ、
ル年々歳々勞費ノ増加果シテ如何リヤ其最
モ愚ニ堪ハザルハ事体異常大政府ノ裁可ヲ
仰カサルヘカラスレテ地方廳ノ稟書或ハ添
書ヲ要スルモノ、如キ皆東位二百里外ノ政
府ニ赴カント欲シテ先ツ西位三四十里外ノ
縣廳ニ走ラサルヲ得ス此ニ於テ逆行三四十

里廳下ニ至リ又却行三四十里本土ニ還リ然
ル後始メテ東路ニ就ク得是レ二百里ノ道
中海時往返七八十里ノ迂路ヲ取ルナリ其七
八十里モ亦道路平坦舟車自由他縣下ノ如ク
ナラス而シテ猶至急要件利害相関疎スル者
ハ吐嗟辨了ノ方便アルヘシト雖モ海路ハ狂
浪駭瀾不測ノ天險陸路ハ跋嶺或ハ沙漠等ニ
シテ舟車輿馬急速ノ用ヲ成ス能ハズ遷々ト
シテ往キ還カトシテ返ル往返ノ間凋轍ノ魚
鮑魚ノ肆ニ入ル者比々皆ナリ以上件々

是レ其大畧ナリ而シテ尋常書面往復ヲ以テ
從事スル者ノ迂路迂遠徒費徒勞ニ屬シテ延
滯警雷アル如キハ殆ント枚舉ニ遑アラザル
ナリ嗚呼人瓦ノ不便利モ亦甚シカラヌヤ是
レ島取縣再置ヲ請フ所以ノ三ナリ
士族ノ情況 時勢ノ浸遷ニ因リ數回ノ改革ヲ
怪テ生計日ニ縮リ困弊年ニ増スハ豈ニ独リ
因伯士族ノミニ止マランヤ是レ必至ノ勢ニ
シテ究ルヘカラザルノ道理ナリト雖モ賦レ
氏因伯士族ノ如キ其最モ甚シキモノハナカ

ルベシ其當時ノ情况ヲ記述セシニ士族ノ尚
城下ニ居住スルモノハ九百六十四戸
二万五千五十九人ニシテ其島取ニ四千九十
七戸一万六千五百五十一人米子倉吉ヲ併セ
テ七百六十二戸三千四百九十人其他千五百五
十二戸五千八百八十八戸外村落ニ居住スルモ
ノニシテ其貧乏全裕アルモノハ僅カニ八十
二戸ニシテ其次千八百九十九戸或ハ官途ニ出
身シ或ハ巡査看守等ノ職ニ従事シ或ハ町村
学校ノ教員トナリ或ハ代言代書トナシ或ハ

傘提灯蓆細工機織等其他種々ノ手藝力役ヲ
宮ニ恩賜公積証書ノ全額又ハ歳分ヲ保有シ
稍自活差向トキモ、ニシテ其以下ハ貧困與
難、徒タリ而シテ其内且タ糊口ニ苦ミ凍餓
ニ瀕スルモノ九百三十三戸三百六十二居
シリ然レ氏近年物價非常、騰貴ニ遭遇シ昔
日稍自活差支トキモ、モ今日ハ忽チ凍餓ニ
瀕スルニ至ル要之貧乏全裕アルモノ、外畿
二月ニ糊口ニ迫リ其遂ニ言フベカラザルノ
慘狀ニ馴致スルヤ必セリ而シテ彼、與薩士

族ノ拳動ヲ視ルニ夫ハ筆墨ヲ賣ルニ托シ街
村ニ救助ヲ乞ヒ婦ハ破囊ヲ提テ憐ヲ宮里ニ
求メ殆ント乞食者ト其態ヲ同フスルニ至ル
然レハ此輩ハ大概羊地氣哀者ニアラザレバ
則天資極メテ温順ナル者ナリ夫ノ羊地氣剛
及賦性慄悍ナルモノニ至テハ其腕力ニ誇負
シ千百党ヲ成シ成規ニ抵觸セル種々ノ請願
書ヲ呈出シ其允許シ難キノ指令ヲ受クルハ
ハ則管轄廳ヲ譁思ナリトシ或ハ暴言ヲ以テ
官吏ニ迫リ或ハ飛詔ヲ構造シテ朝野ノ耳目

ヲ聳動シ訛言ヲ流布シテ良民ノ思想ヲ恐怖
ヒシメ或ハ社算ヲ各地ニ詭遣シテ金穀ヲ富
高其家農ニ強請シ或ハ士族授産ヲ口實トシテ
農畜ノ營業上ニ干渉シ或ハ竊盜賭博ノ惡行
ヲ爲シ其最モ甚シキハ人ヲ殺シ財ヲ奪ヒ法
網ニ羅ルモノアルニ至ル其情勢已ニ如此亦
進レリト謂フベシ先是境勢根盤令ハ深ク島
取士族ノ將來ヲ憂慮シ備カニ其情態ヲ具シ
其授産ノ策ヲ講シ資金貸与ノヲ政府ニ乞
フアルモ當時其言行レスシテ而シテ遂ニ正

山豈ニ痛惜ニ堪エバケニヤ一再末日ヲ遂テ島
 取士族ハ益窮困ノ域ニ陥リ其惡行與賴己ニ
 社會ノ康寧ヲ妨ケ良民ノ安堵ヲ害スル如彼
 殆ント亦制スバカラガハルニ至ル是レ其治廳
 ノ爲取ヲ距ル三十里余ニシテ自ラ其保護ノ
 未ダ足ラザル所ノモ、アリテ然ルナキヲ憐
 ニヤ隨テ官民ノ間離齟齬ヲ生シ遂ニ明治
 十三年冬成伯二州人民ハ島取縣ノ再置アラ
 ニテ政府ニ請願スル、議ヲ唱ヘ萬口一轍
 要之良民ハ之ニ依リテ以テ其堵ニ安セシテ

ヲ希シ士族ハ之ニ依テ以テ其授任揮霍ノ道
 ヲ得シテヲ望メリ是レ其再置ヲ乞フ所以ノ
 原由ト謂フモ敢テ不可ナルナカルベシ今十
 四年中調査セル因伯士族分真富概表ヲ付シ以
 テ其景況ヲ詳明ナラシムル如左

因伯士族貧富概表

種別	因幡國	伯耆國	計
貧困無 産者	三十三百九十二戸 二万三千五百八十八人	六百七十九戸 二千七百七十七人	四千零七十一戸 一万五千三百六十五人
貧困者	九百十三戸 三千九百八十四人	六百七十九戸 九百九十二人	千八百九十二戸 四千九百七十六人
自活者	九百十三戸 三千九百八十四人	六百七十九戸 九百九十二人	千八百九十二戸 四千九百七十六人
貧困者 餘者	二百九十八人	百五十三人	四百五十一人
貧困者 餘者	五十七戸	二十五戸	八十二戸

飢饉三瀕 たるモノ	八百四十三戸 三千〇〇三人	五十九戸 三百三人	九百二戸 三千三百六人
計	五千二百〇五戸 二万〇八百十四人	九百十三戸 四千二百四十八人	五千四百四戸 二万五千九十九人

夫レ前述ノ如クナレハ鳥取士族困難ノ情况
 他府縣ノ絶テ典キ所其授産ノ事ハ實ニ縣
 治ノ急務一日モ忽諸ニ付スヘカラザル其レ
 照々タリ~~其~~呼鳥取縣再置後ノ今日乃チ六ヶ
 年ヲ怪ルモ尙未々其事ノ著レク拳勅ヲ規
 ルアラザルハ抑モ誰ノ咎ガヤ之レテ後項ニ
 照レ視レバ判然明白ナルモノアルベシ

開道築港ノ計画 因伯二州ニ日ヲ逐テ民物ノ

凋弊セル急因理由及運輸ノ不使不利ナルト
 ハ前託嘆願書ニ陳述セルヲ以テ此ニ贅言セ
 ズ夫レ物産ヲ旺盛ニシ民力ヲ豊厚ナラシメ
 ントスレバ則道路ヲ開修シ水運ノ便利ヲ開
 クニアラザレバ得バカラザルナリ道路開修
 ノ事ハ之ヲ後項ニ譲リ唯築港ノ事ハ火ニク
 辨セザルヘカラザルモノアリ蓋シ我地乃
 チ因伯二州タル物産ノ輸出スル者輕寶貴品
 ハ極メテ數ク多クハ重量巨物ナル米穀木材
 等ヲ主トシ假令道路開修ニ成ルモ之ヲ車

運ニ付スルノ利アルヲ見ズ又輸入品モ其重
量巨物ハ陸運ニ付スハカラサルヲ以テ従来
己ムヲ得ス危険ヲ冒行シ和船ノ海運ニ托セ
リ秋冬ノ際ハ殊ニ風濤ノ險惡ナル忽チ運路
梗塞ノ憂ヲ生シ又海上天候ノ測ラレザル平
時ト雖モ或ハ忽チ覆没ノ災ニカケリ貨王船
主ハ舟ヲ破産ノ厄ニ陥リ我地方ハ物産確々
シテ售ラレス又一時需用ノ欠乏ヲ生シ非常
ノ高價ニ昂リ無用ノ貨幣ヲ支消スルノ憂ヲ
免レス之レガ爲メニ直接間接ニ被ル所ノ損

害實ニ巨ナリト謂フベシ是レ従来海運ヲ開
リテ以テ地方事務ノ最急トナス所以ナリ今
道路ノ開修稍端緒ニ就キ^{ハ則チ}以テ築嶼開
港ノ事ヲ討画シ以テ海運ノ便ヲ開カ^ル陸ニ
人馬ノ往來ヲ便シ海ニ舟船ノ利ヲ通シ於是
我地方初メテ上國ト交通ヲ完フシ物産從是
殖ニ遠利從是啓ケ民智從是開ケ人文從是進
ニ地方ノ精氣煥然觀ヲ改ムル者アルベシ築
嶼開港ノ事其忽諾ニ附スベケンヤ嘗テ我地
方此海ヲ擊スルニ塔嶼ノ乏ニキ實ニ甚矣ト

謂フバシ其間独リ境港ナルモ是ハ夫ノ出雲
ト伯西トニ使スル所ニシテ因幡地有ニ於テ
ハ其間餘甚ダ少シトス而シテ因幡ニ於テ其
地ニ求ムルニ独リ細代田後ノニ灣アルノニ
田後ノ如キハ狭小以テ良港トナスニ足ラズ
ト雖ハ細代ニ至リテハ駒馳山其西ヲ擁シ岩
礁其東北ニ障ハ灣内廣袤凡數百間深サ九一
丈二三尺ヨリ三丈餘ニ至ル之ニ加フルニ海
中岩石相連リ北ヨリ南ニ突出ニ殆ント石塊
ヲ築クノ基礎ヲ爲ス者ノ如シ而シテ其造築石

材ハ駒馳山海岨ニ於テ之レヲ伐採スルニ海
上僅カニ七八丁ニ過キス實ニ天造地設我地
方ニ幸スルノミナランヤ蓋シ我皇國ニ幸ス
ル所ナリ舊蓬曾テ其築港ヲ謀ルト雖ハ計畫
精ナラズ遂ニ竣功ヲ見ス安シク其工跡ヲ遺
セリ今此地ニ就テ其實狀ヲ測量シ開築ノ工
事ヲ起シ爲取ヨリ本地ニ至ルマテ上等馬車
道ヲ開通シ本港ヨリ海船航海ヲ開キ東敦賀
ニ通シ敷賀大阪間鐵路ニ資リテ以テ京摂ニ
聯絡シ又直ニ北海道諸國ニ交通セハ其實用

ハ益シ甚ク巨額ナラスシテ而シテ其効益ニ
至リテハ則甚ク大ナルベシ今其効益ヲ略挙
セシニ

一地方物産ノ販路ヲ開キ價格ヲ生スル事

一従来鬱滞未啓ノ遺利ヲ開殖スル事

一持来士族投産ノ爲メ生スル物産ヲ啓動シ
投産ノ効ヲ立ツベキ事

一輸入品ノ運費ヲ減シ價格ヲ發シ通貨^出
ノ弊ヲ消ス事

一非常難破取ノ憂ヲ去リ危險ノ害ヲ除ク事

一物價ヲシテ上國ト平均ナラシメ昂低ニ付

テノ損失ヲ免カル事

一一般商業上ニ活潑力ヲ生シ人智ヲ開達セ

シムル事

一凶歉ノ歲廻来ノ硬ヲ得テ民ノ饑饉ヲ救フ
事

其レ其効益ノ期スベキモノナリ独リ地方ノ
硬益ナルノミナラス國家ニ於テ亦關係甚大
ナリトス其起業豈ニ忽ニスベケンヤ故ニ
其起業資^金ハ何レニ取ルニモセヨ此港ヲ開

築シ以テ水運ノ利便ヲ通スルハ則我カ地方
物産ヲ繁殖旺盛ナラシムルノ基礎ニシテ地
方人民ノ渴望シテ止マサル所ナリ^ト置縣
後數ニ此事ヲ地方官ニ申陳セ^シ然レ其速
ニ取議辦了ノ道ヲ得ガルトヲ以テ明治十七年
中島取縣士族岡寄平内町平民田中政春上京
ニテ築港ノ事ヲ其筋ニ具狀シ尚且其事情ヲ
照察シ其地理ヲ測定シ大ニ特殊ノ議ヲ發シ
國費ヲ以テ之レク起業ヲ計畫セラレ^ニト
乞ヘリ事尋テ上司ニ達シ田邊三等技師未堅

アリテ其實測ヲ遂ケテ其成跡ニヨ
レハ果シテ地方人民ノ渴望セシ如ク數隻ノ
軍艦ヲ入ル可キ良港トナルハシト云ヘリ然
レ此地方官ノ意見ト地方人民ノ喫論ト相雙
ハガルモノアルカ茲茲今日ニ至リ官民ノ奮
テ大ニ其起業ヲ計畫スルノ場合ニ至ラガリ
ニハ誠ニ遺憾ノ至リニ堪ハガル所ナリ
物産繁殖 我カ地方物産繁殖ノ事ハ敢テ新奇ノ
事業ヲ起サ^ルモ紙茶木材等ノ如キハ從來
名ヲ他地方ニ傳シタル産物ナレバ嚴ニ其取

帝規則等ヲ設ケ監督獎勵漸次其改良ヲ謀ラ
バ地方ノ衰運ヲ挽回スル夫レテ雖キトニア
ラサルベシ

再置縣以來六年間今日ニ至ル現況

一施政ノ方向相定ラザル事

一官民ノ間疎隔スル事

一休養生息ノ旨ニヨラス民力ノ衰耗ヲ顧ミ

ザル事

夫レ利害相錯ルハ物ノ常ナリ縣政ノ如キハ
則唯縣知事其人如何ニアルノミ集取施政固

ヨリ困難ナルヘシト雖モ吏ニ詔廳ヲ開設セ
ハ則人心必ズ發動セシ此時ニ當リテ新ニ其
人ヲ得以テ之ニ臨モハ則可ナリ若シ其人ニ
アラザレバ昔日ノ勝レリト考スニ若カザル
ナリ明治十四年置縣ノ令アリ於是地方人
ハ欣喜拚躍殆ント寢食ヲ忘ル夫レ鳥取ノ地
タル前項陳述ノ如ク一方ニ僻在ニ風俗固陋
士貧乏野蠻ヲ難縣ノ稱アリ而シテ廢縣ノ後
明治九年鳥取縣ヲ廢
置縣ノ屬ス
六年ノ又ニキ事情拮据
塞田整葺深ク島根縣廳施設ノ際甚々不可十

キニ似たりト雖也上下西情疎薄猜疑日ニ深
り人心涣散遂ニ殆ント收拾スヘカラザルニ
至ルノ傾向ナキ能ハス是レ地方官ノ最モ痛
心スベキ所ナリ鳥取措置ノ策固ヨリ易カラ
スト蓋氏然レ氏凡事皆愚因マリ苟モ其原因
ヲ尋ネ以テ之ヲ治メハ事即チ考スベシ故ニ
其施政ノ能ク大綱ヲ提持シ以テ發通ヲ謀ラ
ハ則テ豈ニ其レ難カラシヤ之ヲ要スルニ地方
官タルモノハ胸襟ヲ洞開シテ以テ方向ヲ示
シ材對滯ヲ通シテ以テ人心ヲ振起シ卒先導勵

以テ其精神ヲ煥發スルニアルノミ若シ夫レ
然ラズトテ唯ダ目下ノ現況ニ就キ以テ區々
姑息ノ業ニ從事セハ則チ鳥取ノ事終ニ為
為スヘカチガルナリ今ヤ置暨以來星霜六
換歳ヲ閱スル夏カラズトナサズ事ヲ視ル歎
セズト考サズ而シテ縣民ノ其^治ヲ被ルモノ
亦又又ミカラズトナサズ而シテ其事功ヲ尋
メレバ則チ未ダ大ニ暨民ノ希望ニ副ハサ
ルモノアルカ如キナリ斯レモ初メ鳥取人ノ置
縣ヲ乞フ其意ハ豈ニ此ニ止マラシヤ政府ノ

殊ニ此縣ヲ置カルモ亦々此ニ止コラニヤ今
唯々置縣以來ノ事功ヲ挙ケルバ道路開修ノ
工事アルノニ其他教養ニ勸業ニ士族授
産ニ未々照然安見効ヲ見ズ其道路ノ開修
モ工事未ダ半ナラズニテ紛議百出官民ノ
間怨シド將サニ悞和ニ害スルモノアラトス
而シテ道路開修聖堂、為メニ縣民ノ課納ス
ル金額賣處三十万圓、委キニ上レリ又置
縣以來地方費一頓ニ其増額ヲ加ヘ加之士族
授産金ヲ縣收人ニ募集シ一家課納出ノ金

頃前後併セテ千金之レカ為メニ破産流離ス
ルモノアルニ至ル於是民物凋衰亦極美此
時ニ際シ縣廳及警署本部新築、幸ハ縣民
ノ深ク是認セザル所ニシテ縣會ニ於テモ目
下民物ノ現状ヲ查察シ之レヲ後年度ニ讓ル
ノ意見ナシトナサズ然レ氏其間明言スヘキ
ヲサルノ事情アリテ遂ニ其事ヲ成スニ至リ
シト云ヘリ且今日地方費等、年々歳々其増
加ヲ致シ其課納ニ困難スルハ種々ノ原因則
大政府法律上ノ改正等ニヨリテ増加セザル

ハカラザルノ理由アル、シト雖モ救民官及
ルモ、ハ深ク民カ、耐否ニ注意シ厚ク休養
生息ノ旨ヲ体セザルベケニヤ惟フニ我縣政
ノ事ハ前述ノ如ク則縣知事ノ心ヲ休養生息
ノ術ニ用エルト極ノヲ薄ク縣民ヲ觀ル極メ
テ親切ナラス而シテ苟且安逸ヲ是レ謀リ日
ニ遊獵ヲ事トシ廳中ノ事務ハ拳ケテ二三原
官ニ委任シテ顧ミザルモノニ似タリ故ニ置
縣後六年星霜ヲ経ルモ主ダ懈ク処部シテ親
ク下民ノ疾苦休戚ノ情ヲ按察スルトアルヲ

聞カス其事功ヲ向ハ一則之レアルナシ縣政
方向ノ定マラザル程爲滞ノ通セザル人心益振
ハスレテ而シテ縣民当初ノ希望ニ副ハザル
モノアルモ亦宜ナラスヤ
一名ヲ士族授産ニ藉リテ遊ニ資金ヲ賦課シテ
其事業ヲ發ニスル事
夫レ專取ノ事ハ士族授産ヨリ急ナルハナク
又士族授産ヨリ雖キハナシ其授産事業ノ計
画ハ冒縣前ヨリ士民有志者ノ夙ニ焦思苦慮
セシ所ニシテ本縣知事赴任已来亦深ク此事

ノ挙カラサルヲ憂ヒ初メ有志者ヲ招キ以テ
其前途揮霍ノ方法ヲ協議シ得ガニ大ニ為ス
所アラントス然ルニ其間種々事情ノ生出ス
ルモノアリテ終ニ有志者ノ奔走周旋ヲ止メ
縣廳偏ニ之ヲ負擔シ其資金募集ニ着手ス
ルニ至ル因テ此ニ其募集ノ是況ヲ略述セン
ニ縣廳兜々簿ヲ按シ管下士民ノ相当財産ア
ルモノヲ調査シ而シテ各自義捐セシムベキ
金額ヲ定メ然ル後各郡長戸長ヲシテ其部下
ニ就テ便宜之レヲ説諭セシム然レモ當時氏

物凋哀救弊ノ秋ニ際シ且ツ諸牧費ノ課徴ス
ハキ金額日ニ多キヲ加ヘ又道路前供事業
ノ為ノ臨時課出ヲ要スベキモノアリテ士民
共ニ必至困難ヲ極ム故ニ假令其挙ヲ贊成ス
ルモ或ハ其義捐スベキヲ辭シ或ハ之ヲ好ミ
セ^{ハル}再^{マリ}三説諭勿議百出到底迄達ニ辨ラヌ
カラサルノ情况アルヲ以テ縣官^{頃永}原^ニ等^等原^小
田^三等^原ヲ四方ニ派遣シ大ニ其金員ヲ召集
外^ニ人^外或ハ戸長後場ニ或ハ寺院ニ義捐者タルニ
キ資格アルモノヲ召集シ若シ縣廳豫定スル

所ノ金額ヲ出スヲ肯セザルモノアリハ則或
ハ之レヲ叱責シ或ハ之ヲ罵詈シ或ハ之ヲ悲
赫シ甚シキハ一二日間之ヲ墜置シテ歸宅セ
シメザルニ至ル其甚暴狼藉果シテ如何ソヤ
然レモ撲野ノ士民深ク事理ヲ辯セズ徒ニ其
虛威ニ畏伏シロ是復非之ヲ争フ能ハズ姓々
之ヲ羨慕セシト云フ其レ如此多ク至員ヲ徵集セ
ルヲ以テ其事掌目的ヲ向ハバ迄トシテ其順
序アルナシ唯云フ先ツ金員ヲ集メ然ル後事
業ヲ議スベシト又云フ目下貧士族ノ現情ハ

之ヲ見ルニ忍ヒス乞食者ト一般其態ヲ同フ
セリ則チ今日之レカ救濟ノ法ヲ考ヘ授産ノ
道ヲ立ツルハ同縣士民ノ義務ト謂ハガレ
カラズト因テ或ハ急ニ端々ガレアルモ授産
ノ事ハ一月モ忽諾ニ付スベカラストナシテ
為メニ若干金員ヲ義捐セシモノモ亦其精神
ハ則宜シク急ニ其事業ヲ興シテ目下貧
士ノ現狀ヲ救ハシムヘキニアリ然ルニ縣廳
ハ前言ノ趣旨及ヒ人臣ノ希望ニ及ビ頌ニ其
方針ヲ轉向シ達ニ立ツヘク勉メキ最急ノ

幸堂ヲ擲ケ其義捐至ハ之ヲ銀行ニ利子付限
ケトナシ幸堂ハ三ヶ年ヲ期シテ之ヲ規画計
謀スルヲトナセリ其レ果シテ如此ナレハ則
目下数千人ノ餓餓ニ瀕スルモノ如何之ヲ
措置スベキヤ其救済ノ法授後ノ道ヲ設ケス
シテ徒ニ其為ニ任スベキカ是レ豈ニ人情ノ
忍ナ所ナラニヤ況ニヤ救民官ノ責アルモノ
ヲヤ蓋シ置懸以來懸廢ハ辛苦大ニ士族授産
ノ堂ヲ起スベキヲ公言シ民間有志者ノ己
ニ計画セル幸堂モ之レガ為メニ或ハ之ヲ中

止シ又貧士族ハ之レカ為メ隱忍授産揮霍
時ヲ待ツ一日千秋ノ思アリ然ルニ六ヶ年ヲ
怪テ独リ何事幸堂ノ起ルヲ見サルノミナラ
ズ其反テ民間起ルベキ幸堂モ立之レカ為メ
ニ或ハ妨害支障セラルルノ感ナキ能ハザル
モノ、如シ然ラハ寧ロ初メヨリ断然士族授
産ノ事ニ是レ防セザルヲ告テ而シテ民間
有志者ヲシテ奮勵激昂其精神ヲ振起シ以テ
之カ措置規画ヲナシムルノ勝レリトスル
ニ若カザルナリ又彼義捐金義捐ノ受領者ノ

方法ハ(在縣官吏ノ義捐金ヲ陸ク)之ヲ才三期
ニ分テ才一期ハ其金額ノ四分残り六分ハ才
二期算三期ニ之レテ抗半徴集スルトシ而シ
テ其算一期取納ニカ、ル金額惣計三万四、
下ラズ之レニ明治十五年申請ノ申請ニヨ
リ政府ノ貸付セラレタル金五万四千ヲ合算ス
レハ八萬圓金、巨額ニ上レリ己ニ此巨額ノ
授産事業ニ資タルバキモ、アムアリ何堂
カ起スバカラウカウニ又何事カ成スバカラウガ
ラシヤ蓋シ從來島取士族授産資本金トシテ

己ニ巨額ノ恩賜アリ然レモ置縣創設ノ秋授
産事業ハ縣政施設ノ最急要務ナルニヨリ政
府特殊ノ建議ヲ以テ五万四千ヲ貸付セラレタ
ルモノナレハ才年コソ、鄭重着實ニ其堂ヲ規畫
シ其實効ヲ修養スニキハ勿論ト雖モ數年ノ
久シキ未ダ何等施設スル所アルヲ聞カズ唯
銀行ニ之ヲ預ケ置キアルバ利子年々逐テ増
殖シテ四年其利子ヲ積算スルモ殆ント數千
圓ニ下ラガル、レ然ラハ尙初政府ノ無産士
族ノ情態ヲ憐念シ其饑饉ニ嘆スルノ徒ナシ

テ我分生路ノ道ヲ得セシメ而シテ置縣施治
ノ実効ヲ布回セラル、ノ美譽モ或ハ之ヲ實
際ニ表章スル、機ヲ後フシ亦我士族ハ未ダ
政府無涯ノ厚恩ニ沐浴スルヲ能ハスシテ其
慘情ハ終ニ言フベカラザル、域ニ陷ラント
ス因ラ士民有志者、右貸至金ヲ以テ相当事
業ノ計畫アラコトヲ請求セバ則答云フ茲金
処分ノ責ハ知事ニ在リテ人ニ負、其モ敢テ衣
~~取~~ズ一キモノニアラヌ且ツ假令談判子金ヲ
以テ或ハ便宜事業ノ補助ヲナスコトアルモ元

金ハ決シテ之ヲ支消ス一カラヌト然レモ政
府ガ当時貸至セラレタル事實ヲ誰否セバ其
今日ノ結果ト相及スル所、モノナカラシヤ
故ニ今日ノ窘勢ヲ以テ之ヲ言フ中ハ貸至金
ノ處分ハ彼ノ如ク亦多時民間義捐者ノ志望
モ貧士ノ現情ヲ救済スルニ在ルハ則ケ其ハ
事業ノ主ト起ラサルヲ見テ募二期以下
ノ課出ハ到底前約ノ如ク義捐スルヲ能ハ
カラントス又地方官ハ士族ノ爲メニ民間疲
弊ノ救巨額ノ金員ヲ募集シ其實効未ダ立タ

ス実業未ダ掌ラズ在算今日ノ窮迫為スハキ
ナキニ至ル然ラハ則士族ノ義捐者ノ恩惠ニ
背キ加之地方官ノ考ムニ其ノ各義ヲ賣ラル
モノ、如シ既ニ本年春士族有志者連署直事
由テ具シ早リ授産中業ノ施設揮霍ヲラニ
テ乞願セシモ縣廳ハ之ニ答テ曰リ目下良案
奇策ノ士族ニ端足チ乏フバキモノナシ漸次
完全ノ方途ヲ得テ之ヲ施スベキナリト嗚呼
何ゾ其言、迂濶ニシテ殊理ニ相及セル如此
ヤ目下士族ノ慘悲哀痛ノ景况ハ實ニ名状ス

ルニ忍ビガルモノアリ鳥取有識ノ士ニクシ
ト策氏負士ヲ救済スルノ方途ヲ案出シ之レ
カ措置ヲ誤エラガルモノニ至リテハ未ダ其
人ナシト云フベカラス然ラハ今日ノ策知事
ハ前述縣下ノ輿論ヲ採納シテ吏ニ士民惣代
者ヲ公撰セシメ授産事業規畫ノ下ニ協テ此
非業ニ委任シ以テ其業ヲ責テ負擔セシメ縣
廳之レヲ監督スルノ方途ヲ設ケ以テ大ニ其
擴張揮霍ノ道ヲ謀ルニ至ラハ其事誠ニ公明
正大士民ノ希望之ニ過リルモノナカルベク

然レ此知事今日、所見ニ縣下ノ輿論ト其方
白テ異ニシ到底官民ノ一致ニ合其并了道
ナリ今日ノ現情ヲ察スレハ独リ知事其人ニ
依頼シテ撥産揮霍ノ時ヲ待ツベカラザルモ
ノアリ因テ士族有志者皆協議ヲ遂ケ實際ニ就
キ調査シタル起業ノ案及資金貸付ノ具
シ不日更ニ内務省ニ乞願スル所アラントス
一巨額ノ金ヲ濫費シテ疎悪ノ道路ヲ開修シ其
間云フヘカラザル弊風ヲ生シ風雨毎ニ破壊
スル事

岩ヲ鑿キ山ヲ斫リ道ヲ開ク通道幾ニ數十條
既ニシテ其費金無慮四十萬圓ニ下ラス
其收人氏ノ地方税及町村費ヲ以テ支辨セシ
金額大ニ三十萬圓ニシテ之ニ改脩道路家ニ
當ル私有地寄附金ヲ充算スレバ殆ト四十
萬圓ニ達セリ實ニ置縣以來ノ大事業ニシテ
其事誠ニ美ナリト云ヒテ事未タ半バナラス
シテ紛議有出然亦万端或ハ事ヲ懸懸ニ呈シ
テ理由ヲ伺フモノアリ或ハ是非ヲ法術ニ争
フモノアリ或ハ町村聯合會ノ決議ヲ以テ事

室、齟齬ヲ誅ルモノアリ以テ縣廢揚置、古
否ヲ判別スルヲ敢テ難カラザルベシ其然ル
所以ハ何リヤ見レ必ス大ニ原因アリ初縣官
ヲ四方ニ湫遣シテ改修隄路、室則ニ着手セ
シハルニ當リ其姓々倨傲ヨ擅長官ノ命令ナ
リト称シ人氏ノ承諾ヲ怪スシテ妄ニ墻ヲ踰
ハ屏ヲ破リ其私有地ニ闖入シ甚シキハ自ら
人氏ノ願書ヲ携帶シ深夜戸長役場ノ門
ヲ叩キ之ニ其輿叩ヲナサシムル等其他種
々失當ノ措置アルモノ一々之ヲ控奉スル

ニ暇アラス然リ而シテ今日最モ我地方人氏
ノ不幸ヲ感スルモノハ開墾工事ノ殊惡ニ
シテ一朝河水漲溢セハ忽ケ道壞レ堤潰
ハ臨時水災費、課出ハ毎年殆ント十萬圓乃
至二十萬圓至、巨額ヲ要スルニ至ル抑我地
方人氏ハ道路開墾、大業ヲ贊成シ疲弊凋衰
ノ状ニモ拘ハラス耐ユ可カラザルヲ耐一忍
フベカラザルヲ忍ビ前述實ニ巨額ノ費全ヲ
課納セリ然ルニ其今日、徒置ハ如彼天災地
變ハ固ヨリ人事、豫期スベカラザル所ナリ

ト雖氏若シ不幸ニシテ明歳モ亦又昨年今年
ノ如ク水害ヲ被ルルアラハ則我地方ノ慘状
ハ豫メ想見スベキナリ開墾工事、堅固築
穿ナラズシテ其疎密ナル理由ハ左ニ其大畧
ヲ陳述セシ蓋シ工事請員上、事ハ谷府縣其
弊且自ラ少ナカラザルベシト雖氏我地方ノ
如ク其是々シキハナカルバニ夫レ縣下ニ縣廳
試驗所、請員人(多クハ他縣人ニシテ工事上
熟練経験ノ聞、ナキモノト云フ)十々モ、四
五名アリ則ケ縣廳ニ之ニ目論見書ヲ下附シ

テ入札セシメ然ル後請員ヲ命ズ而シテ縣廳
ノ其請員入札ヲ命スルモノハ此四名ノ限
ルヲ以テ之ヲ經シテ上請ケト云フ又其次ニ
下請員人ナルモノアリテ廢ルハ上請員人ニ
シテ一万四ノ工事請員(原々ハ八)則下請員
人ハ上請員人ニ發一万四ノ由ヲ以テニ割乃
至ニ割、年數料ヲ引去ラシメテ己之ヲ請員
ニ又其下請員人ハ若干ノ年數料ヲ引去ラテ
之ヲ甲ニ請員ハシメ甲ハ之ヲ乙ニ乙ハ之ヲ
丙ニト告若干ノ年數料ヲ請求シテ之ヲ轉賣

スルヲ以テ故ニ一万四ノ工事モ到底完成ニ
消費スル所ハ殆ド其半額ニ過キズシテ而シ
テ其最後ノ請員ヲナスモノハ皆若干ノ損失
不足ヲ告ケ為メニ家産ヲ蕩尽スルモノ比々
皆是ナリ其他種々ノ弊風ヲ生成シ我地方工
事ノ堅固此輩年ナラガルモ故テ怪ムニ足ラ
ガルナリ然ラバ地方人民ノ課出セル臣願
ノ工費モ其^{半額}ノ上下請員人等ノ私
占壟斷スル所ナリ是々シキハ間使ノ工
事未ダ落成ヲ告ぐるニ至ラスニテ先ツ其

破潰發生ヲ見ルニ至ル實ニ人民不幸ノ
極ト謂フヘシ嘗テ縣會ニ於テモ速ニ其從來
ノ弊風ヲ除去シ地方費ニ係ル工事ハ總テ其
利害ノ最關係アル道路人民ヲシテ之ヲ請
員ハシムルノ制度ヲ設ケラレシトテ建議セ
シテ數回然シモ未タ其事ノ舉行アルヲ見ヌ
ニテ依然弊風ノ存在セシハ抑亦何故ナルヤ
到底縣會^{連署}ノ熱意ニ基キ從來種々ノ弊風ヲ一
改スルニアラサレバ工事上ノ完全堅固ヲ望
ムヘカラザルナリ願フハ上司ニ於テ嚆ト其ノ

實際、景況ヲ調査セラシ其改ム一キハ速ニ
之ヲ改メ其懲ス一キハ速ニ之ヲ懲シメテ
シテ

一教育ヲ擴張スルノ急ナク施設ノ順序相立タ
サル事

一縣會ニ對シ危計ヲ以テ議負ヲ欺瞞スル事
一勸業勸奨ノ方ヲ怠ル事

教育勸業ノ施設擴張ハ地方人民ノ財力如何
ト當局者注意シ、厚薄トニヨルモノナレハ我
地方ノ如キ土僻民貧ニシテ而シテ敢テ俄ニ

其整齊完美ナルヲ望ム一カラスト雖モ然レ
モ其人士ヲ養成シ以テ知識ノ増進ヲ謀リ地
方豊饒ノ基礎ヲ立ツルハ亦方々ノ一大急務
ニシテ町村教育ノ事ハ暫ク之ヲ措クモ國家
ノ根幹タル一キ人士ヲ陶冶育成スル縣立師
範学校中學校ノ如キニ至リテハ其地方ニ對
スル責任ハ重且大ト謂フハシ然ルニ往々教
員其人ヲ得ス管理其宜ヲ得ガルカ否ニ生
徒中將來有患ノ輩ハ退校シテ輩ヲ他府縣ニ
移シルモノアリテ今ハ頗ル兩校ノ不信用ヲ

縣民ニ傳セリ殊ニ教員ハ放蕩無賴ニシテ不
名行ノ聞、甚々高キモノアリ且ハ廢廢ニ嘗テ
之ヲ戒訓懲罰セシメアルヲ聞カス然ラハ巨
額、地方費ヲ以テ兩校ヲ設テスルモ、地方疲
費無用ノモノ、ルルヲ免カレズ嗚呼教育監督
、法其施設ヲ順序ヲ誤ル亦甚シカラスヤ又
勸業ノ事ハ我地特^方物産タル^綿木綿蒙紙等、製
出年ヲ追テ其額ヲ減シ従来又シク其業ニ傾
キセシモノモ今日ニ或ハ空手為スヲナキニ至ル
所以ハ益シ瓦物凋衰ノ極資^金ノ之ニ當^ハキモ

ノモ為メニ皆消耗蕩尽セルカ故ナリ我地^方今
日ノ衰運ヲ挽回スル、策ハ唯其特有物産ノ
製出ヲ盛大ニスルニアル、之其之ヲ盛大ニス
ルノ計畫ヲ立ツル敢テ巨万ノ資金ヲ要セズ
シテ其奨励監督ノ方法ヲ設ケルノ當否如何
ニアリ當テ士民有志者ノ常ニ此中ニ熱心計
画スル所アルハ則チ別冊ヲ以テ其詳細ノ意
見方法ヲ具伸スヘキナリ

縣會議員其數計甚々多カラスト由^レ此縣民
擡挙上ノ結果ハ議員其人ヲ扶フニアラスシ

テ單ニ所有財産、厚薄ニヨリテ之ヲ撰擧ス
ルノ傾向アリ見、僻陋村落人民、常勢ニシ
テ散テ怪ハシ足ラスト雖モ縣廳ニ之ヲ奇貨
トシ其賤會ニ發布セル議案ヲシテ必ス之ヲ
実行セントスル中先ツ二三屬官ハ彼ノ無
智カ議案ヲ扱キ種々ノ危計ヲ以テ其發布議
案ニ替成スヘキヲ豫約セリ若シ之ヲ拒ム中
ハ其一個人ノ伺願書等ニ干渉シテ種々ノ繁
難ヲ束セルノ事實アルヲ以テ不得己其言ヲ
承諾セル輩少ナカラスシテ往々公會上不却

合ノ挙動アルヲ免レス毎會此弊凡マリテ少
シク氣概アル議員輩ハ慷慨之ヲ矯正セシ
ニ盡カセリ

其現況如此急因

一心ヲ縣政ニ用ユルヲ薄クシテ縣下人民ニ
對シテ不親切ナル事

一日々鳧魚ノミヲ獵獲シ遊興ニ耽ル事

一縣下有耆者ノ施政ノ利害ヲ論議スルモノ

アルモ之ヲ容レザルノミナラス之ヲ輕侮
スル事

一、其ニ同縣人ヲ採用シテ總監官吏ヲ組成シ
 陰ニ己ノ衛護ヲナシハルル如キ姿勢アル事
 是ニ因テ之ヲ觀ルニ因伯ニ州人民ノ再置縣ヲ
 願望セシ素志ニ背戾シ其幸福ヲ布フモノ今ハ
 及テ其不幸ヲ醸スルノ原因タラサルヲ得サル
 ニ至ル然レモ縣政ノ善否ハ其等當時人民ノ容
 易ニ論議スベキモノニアラス今則其等有志者
 總代トシテ上京シ敢テ乞願スル所尤ノ如シ
 一、内務大臣親レテ視察アリテ縣政ノ善否ヲ
 判別セラルルノ事

右縣百之事情長年ヲ顧ニス奉元上候間百一
 敷出憐愛被成下度候以上

鳥取縣士族有志者總代

宮崎貞藏

青木 幹

石原常節

明治十九年十二月

Handwritten text in vertical columns on a red-lined page. The text is written in a cursive style and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. The columns are separated by vertical red lines, and there are horizontal red lines at the top and bottom of the writing area.

